令和３年１１月２４日

第３学年保護者様

加古川市立両荘中学校
校長　中尾　裕彦

# 全国学力・学力状況調査について

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握・分析し、改善を図ることを目的に、本年度は、国語、数学の２教科が、５月１８日（木）に実施されました。

以下の結果は、本校の現状を分析してまとめたものです。掲載している結果は、学力や学習状況の一部であることを踏まえつつ、この結果を基に、学校と家庭が連携しながら、これからの時代に求められる資質、能力の育成を図っていきたいと考えています。

なお、表示につきましては加古川市教育委員会の規定に基づき以下のように表現しています。

【加古川市の基準】

| 区　分 | 表　現 |
|---|---|
| 国及び県の平均正答率と本校の平均正答率の差が６%以上であるもの | 十分満足できる状況 |
| 国及び県の平均正答率と本校の平均正答率の差が±６%未満であるもの | 概ね満足できる状況 |
| 国及び県の平均正答率と本校の平均正答率の差が－６%以上であるもの | 改善が必要な状況 |

## １，【学力調査の結果】各教科の正答率

| 正　答　率（%） | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教　科（項目） | 全　国 | 兵　庫　県 | 加古川市 | 本　校 |
| 中学校国語 | ６４．６％ | ６４％ | ６２％ | 概ね満足できる状況 |
| 中学校数学 | ５７％ | ５８％ | ６０％ | 概ね満足できる状況 |

今年度３年生は、すべての教科項目において、全教科全国平均、兵庫県平均の値との差が±６%未満であり、概ね満足出来る状態でした。

（優れているところ）

「国語」

・文脈に即して漢字を正しく読む。
・話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える。
・書いた文章を互いに読み返し、語句の使い方、段落相互の関係に注意して書く。
・質問の意図を捉える。

「数学」

・整式の加法と減法の計算ができる。
・具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる。
・与えられたデータから中央値を求めることができる。
・問題場面における考察の対象を明確にとらえることができる。
・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。
・ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる。

（課題とされているところ）

「国語」

・文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ。
・事象や行為などを表す多様な語句について理解する。
・文脈の中における語句の意味を理解する。
・登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する。

・語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する。
・伝えたい事柄について，根拠を明確にして書く、話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつという問題での無回答率が国・県に比べて高い。

「数学」
・関数の意味を理解する問題の正答率が低い。
・平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明する問題の正答率が低い。
・ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見い出し、それを数学的に表現する問題の正答率が低い。
・事象を数学的に解釈し、問題の解決方法を数学的に説明する問題では無回答率が高い。

2【生活状況調査の結果】

【優れているところ】(全国・県よりも10%以上、上回っている項目)
・「自分で決めたことはやり遂げる」に「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒が多い。
・自分の思いや感じていることを言葉で表すことができる生徒が多い。
・今住んでいる地域の行事に参加している人が兵庫県、全国平均よりも大幅に多い。
・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。

【課題となるところ】（全国・県の平均と比べて10%以上下回っている、または項目）
・「決まった時間に起きている」に「している」と答えた生徒が少ない。
・「自分にはよいところがある」に「当てはまる」と答えた生徒が少ない。
・「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」に「どちらかといえば当てはまらない」と答えた生徒が多い。
・道徳の授業中、グループで話し合う活動があまり多くないと答えた生徒の割合が多い。
・「勉強が大切だと思いますか」に「当てはまる」と答えた生徒が少ない。
・英語の勉強があまり好きではないと答えた生徒が多い。

3，今後の取り組み
【国語】
・言語についての知識・理解・技能が国・県に比べて低くなっている。国語辞典の有効活用やそれに伴う「書く」活動を通じて、学力の定着を図る。
・「話すこと」・「聞くこと」の正答率が高いため、表現できる場を積極的に設けたい。

【数学】
・平均正答率を見ると、「図形」「関数」の領域に関する問題の正答率が低く、その領域における数学的な理解・表現する問題での正答率の低さ、無回答率の高さが顕著に表れている。基礎的・基本的な知識の定着を図ることで、根本的な理解を深めたい。
・「記述式」の問題での平均正答率が低くなっているため、ペアや班、全体での表現する機会の充実を図り、数学的な表現方法を身につける授業を実践する。

4，【考察】
今年の3年生は、地域行事に積極的に関わり、学校生活も落ち着いている様子がうかがえます。
また、自分の思いや考えを言語で表現する資質や自分の決めたことはやり遂げたいという意欲を備えており、学習面をはじめいろいろな面で今後の成長が期待できます。
一方で、指示したことは実行したり、行事にも参加していますが、主体的に意欲を持って参加したり、新たに企画したりすることに課題がみられます。
学習面においては、家庭における計画的な取り組みや授業の復習が十分に行われておらず、少し困難な問題に対してはすぐにあきらめてしまう傾向が見られます。
今後は、学習面、生活面いずれにおいても、物事の本質を十分に理解し、何事にも主体的に取り組む意欲を育成する必要があると考えられます。